

件名(題名) 「 入浴・着脱・整容の基本研修 」 実施日： 9月10日(金)

今回の園内研修では、入浴、着脱、整容の基本について、職員、実習生を交えて浴室で行いました。利用者にとって、身体を清潔に保ち、リラックスでき、健康観察につながる機会として、生活の中で大きな役割があります。反面、浴室という環境は、ケガや事故の起こりやすい場面といえます。

介助者の視点によるポイントを整理しながら、実際に職員が利用者のモデルとなって説明します。

モデルの職員は、機械浴のストレッチャーに横になり、緊張した様子がうかがえます。

介助者は、「ベルトを締めます」「ストレッチャーが動きます」等、タイミングごとに声をかけながら行います。



実際に機械浴槽に入ることは、これまでの研修で無かったとのことで、貴重な機会となりました。

モデルの職員からは

- ・顔の上からお湯をかけられるのは怖そう
 - ・上を向いて、視界が限られる
 - ・浴槽に入ると、ベルト3本のうち中央は締め付けられる気がする
 - ・頭が湯につかっても動けないのは怖い
- といった感想がありました。



経験年数を重ねるほど、利用者側の視点に立った支援の振り返りが大切と感じます。続いて、新任職員も実際にストレッチャーに乗り、機械浴槽を体験！



ストレッチャー上で側臥位（横向き）になってみます。

ストレッチャーの高さは怖く、サイドパネルがあると身体が当たって痛みを感じ、畳んでいると落ちるのではないかと恐怖心に・・・。

介助者はしっかりと肩・腰に手を置き、身体で支えることで、少しでも安心感につながるのではないかなど体験した気づきは、どれもすぐ支援に役立つことばかりでした。



次は、着脱衣についてです。基本は「脱健着患（だっけんちやつかん）」！

ストレッチ性のある衣類が好まれ、ファスナーやボタンがオシャレであっても、時にケガにつながる場合があります。注意しながら、麻痺のない健側から脱ぎ、麻痺のある患側から着ます。

最後は、整容です。ドライヤー、耳まわりの掃除、つめ切り、靴下・靴を履く工程で、看護師から、つめ切りは横一直線に切る「スクエアカット」について、丁寧な説明がありました。

丸く切ると、巻き爪になりやすいためです。爪の手術を受け、痛みが改善され、歩行が可能になった利用者もいるほどです。これは、職員自身にとっても大切なポイント！

基本について知ってはいても、いざ体験してみると気づくことは多くあります。

これからも、気づき、工夫をしながら、支援に役立っていきます。

記事：尾崎